

奥出 茂雄 先生 推薦

『人間の条件』

五味川 純平（著）

大学時代に読書家の友人から勧められました。戦争という極限下を背景に、人間として生きる最低限の条件とはなんであるかを問い詰められる作品です。

特に、戦争捕虜が処刑される場面での主人公の心情と決断は、自分が同じ立場になればどうするかと読んでいて苦しくなるほどの迫力があります。

戦争の真実と人間の在り方について、心に深く刺さる一冊です。

内容紹介

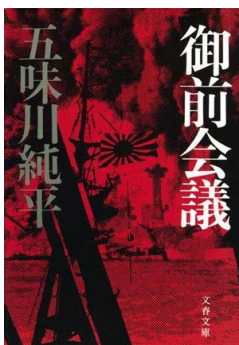
中国人労務者斬首に抵抗した梶は憲兵隊に捕われ、召集免除の特典を取り消された。軍隊内の過酷な秩序、初年兵に対する一方的な暴力、短い病院生活を経て梶はソ連国境に転戦。蝸壺に立てこもる日本兵にソ連戦車隊の轟音が迫る…消耗品として最前線に棄てられてなお人間であることの意味を問う戦後文学の巨編愈々佳境へ。

著者情報

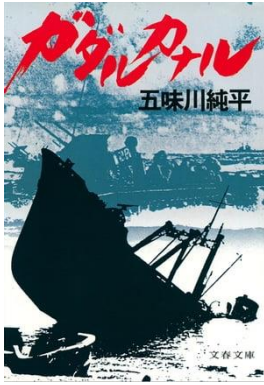
五味川純平（ゴミカワジュンペイ）

1916-95年。作家。中国大連に近い寒村に生まれる。33年大連一中卒業。満鉄奨学資金給付生となり、東京商科大学予科に入学するも、中退。東京外語学校英語部文科卒業。旧満州の昭和製鋼所入社。43年召集され、ソ連国境を転戦、捕虜となる。48年帰国（本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです）

【その他の作品】



御前会議——天皇の前で開かれるため最高の権威をもつ。が、その天皇は一切の責任の外にあった。昭和十六年、四回の御前会議の結果、日本は勝算なき太平洋戦争に突入した。この会議の経緯を詳細に辿り直し、改めて御前会議のもつ奇怪な本質を抉る迫真のドキュメントが本書である。陸軍と海軍の権力抗争、開戦のために工作される非合理的な数字、参戦を疑問視しながら、しだいに口を閉ざしてゆく重臣たち。著者は言う、“恐るべき傲慢と惰性が日本を破滅させた”と。



米も食わずに戦って ぼろぼろになって死んだ仲間達 遠い遠い雲の涯に
たばにして捨てられた青春よ 今尚太洋を彷徨する魂よ——飢餓と疾病の地
獄から生還した詩人はこのように記した。ガダルカナルの戦いでは、日本軍
の作戦遂行上の特徴的な欠陥が端的に表われていた。その犠牲となったのは
数万の前線兵士であった。無謀な作戦、遅すぎた決断、愚かな上層部のツケ
は常に前線の将兵たちの生命で支払われる……怒りをこめて語りつぐべき悲
惨な大戦の真実。



物語は、1928年（昭和3年）の張作霖爆殺事件 前夜から1939年
（昭和14年）のノモンハン事件 までを背景に、様々な層の人間の生き様
から死に様までを描いている。そして、その後の太平洋戦争に至る経緯
について丁寧に表現されている。

NEW 第170回！芥川賞・直木賞決定&入荷



第170回芥川賞と直木賞の選考会が1月17日、東京で開かれ、芥川賞に九段理江さんの『東京都同情塔』が、また、直木賞には河崎秋子さんの『ともぐい』と、万城目学さんの『八月の御所グランド』(入荷済)の2作が選ばれました。

過去の芥川賞、直木賞受賞作品が図書室に揃っています。ぜひ、これを機会に図書室まで、読みに来てくださいね。

NEW はたらく細胞入荷！ほかにも続々入荷



アニメでも大人気の『はたらく細胞』1～6巻入荷しました。から他の中の細胞を擬人化し、わかりやすく細胞の仕組みを描く、大人気漫画、生物の勉強にも

なりますね。

読書のハードルは高いけど、漫画なら…と思う皆さん、図書室には他にも多くのコミックが揃っています。昼休み、放課後、気分転換に、漫画を読み、本に癒されに、図書室に足を運んでみませんか。今年度も残りわずか、新年度に向け、本を読む機会を作り、心を豊かにしましょう。

